

議会運営委員会県外視察報告書

日 時	平成26年11月6日(木) 午後1時30分から午後3時30分まで
視 察 先	山口県下関市議会
視 察 項 目	(1) 議会活動の情報発信について (2) 議会運営の取り組みについて
視 察 者	委員 長 青木志浩 副委員長 荻田信孝 委 員 伊藤公平、大村 聡、富田一太郎、勝崎泰生、向山孝史、夏目 豊
視 察 内 容	<p>(1) 議会活動の情報発信について</p> <p>下関市議会では、平成26年2月に議会の本庁舎新館移転に伴い、議場及び全ての委員会室に映像・音響機器及びインターネット配信用機器が設置され、その後、スマートフォンやタブレット端末での視聴が可能となるよう、ライブ中継はユーチューブ、録画中継はユーチューブにより、それぞれ無料配信サービスを利用した放映が開始されていた。議会報告会の場合である市民と議会のつどいについては、議会運営委員会・議会広報部会が中心となり、議員全員が主体的に参画し、議会活動報告、各常任委員会活動報告、質疑応答、自由意見及びアンケートを実施していた。</p> <p>その他議会活動の情報公開については、委員会室にプロジェクター用電動スクリーン、映像出力用ディスプレイを設置、議場には傍聴者用ディスプレイ2台、車いす専用スペースやキッズルームを配置するとともに、平成26年第1回定例会からは電子表決システムを導入していた。</p> <p>(2) 議会運営の取り組みについて</p> <p>下関市議会基本条例制定時には、パブリックコメントや市民説明会が実施されていた。また、議決事件については、議会の議決すべき事件を定める条例として、4件の議決事件が定められている。</p>
所 感	<p>本市議会としてインターネットによるライブ中継を検討課題としている中で、ユーチューブやユーチューブ等を活用することにより安価な経費で配信することができる下関市議会の映像配信の取り組みは、今後検討を行う上で大変参考になった。ただし、このライブ中継は、マニュアルの整備、費用対効果、議会中継中の発言訂正等への対応などの課題もあると思われ、本市議会において検討を行う際は、議員のコンセンサスを十分に図る必要がある。市民とのつどいについては、下関市議会では、名称を「市民と議会のつどい」とし、市民になじみやすい議会報告会を目指して実施しているが、参加者の伸び悩みが見られるとのことであった。本市議会の議会報告会においても多くの市民の参加者を得るため、PR方法や開催要領等の見直しにより、開催日時、開催場所、内容、回数等の検討が必要である。その他議会活動の情報公開については、議場の設備においても、プロジェクターの活用など傍聴者を意識した取り組みが見られた。</p> <p>議決事件については、下関市議会では、4件の議決事件が定められており、本市議会における、今後の議決事件についての調査、検討を継続する上での参考となった。</p> <p>このほかにも議会基本条例制定時のパブリックコメントや市民説明会の実施、各委員会において活動方針等を決定している点など、本市議会の取り組みが再確認できた項目や参考とすべき事例が多くあり、参考となる視察であった。</p>

日 時	平成26年11月7日（金）午前10時から正午まで
視 察 先	山口県山陽小野田市議会
視 察 項 目	議会改革の取り組みについて
視 察 者	委員 長 青木志浩 副委員長 荻田信孝 委 員 伊藤公平、大村 聡、富田一太郎、勝崎泰生、向山孝史、夏目 豊
視 察 内 容	<p>山陽小野田市議会は、日本経済新聞社産業地域研究所が全国の市議会を対象に実施した議会改革度調査において、議会改革度ランキング9位に位置し、様々な議会改革に積極的に取り組んでいた。初の議員提案による政策条例では、山陽小野田市寄附条例及び山陽小野田市ふるさと支援基金条例の制定に当たり寄附金条例検討プロジェクトを設置し、24回もの検討会議を開催していた。</p> <p>議会報告会については、山陽小野田市議会基本条例において、年2回以上の開催が規定されているが、実施要綱では年4回、定例会ごとに開催しており、中学校区の6か所で議員20名を3班に分けた編成で実施していた。</p> <p>そのほかの議会改革として、議員全員が出席し公開の場で政策や課題について議論する政策討論会、テーマを決めて市内で活動を行う団体や10人以上の市民グループから申し込みがあった場合に開催する市民懇談会、議会に関することをテーマにした出前講座などの取り組みが実施されていた。さらに、平成27年度には市民モニター制度の導入を予定しているなど、積極的に議会改革の取り組みを進めていた。また、公開度、住民参加度、運営改善度の3点から議会基本条例制定の効果を検証している。</p>
所 感	<p>議員提案による政策条例については、山陽小野田市議会として初の議員提案による条例であった山陽小野田市寄附条例と山陽小野田市ふるさと支援基金条例の制定までの経緯について説明を受け、本市議会においても議員提案による条例を検討していく上で大変参考になった。議会報告会については、山陽小野田市議会では議会報告会を年4回開催しており、3つの班を編成しての運営や質疑応答における一問一答の導入といった点が参考になった。また、わかりやすい説明となるように、説明原稿の統一やパワーポイントによるグラフ・表・写真等を用いた説明などについても参考になる事例であった。なお、参加人数は減少傾向にあり、市民が議会報告会に参加したくなるような工夫を検討しているとのことであった。また、政策討論会、市民懇談会及び出前講座については、本市議会では、いずれも取り組んでいない事例であり、議員同士や市民との意見交換、積極的な議会情報の発信などの取り組みとして、今後、本市議会において議員の資質の向上、より開かれた議会を目指した議会改革、議員提案による政策条例等の検討を進める上で参考となる手法であった。その他の議会改革の取り組みとしては、山陽小野田市議会が公開度、住民参加度、運営改善度の3点から議会基本条例制定の効果を検証している点は、本市議会においても、議会改革の取り組みの効果について検証するツールとして参考になるものであった。</p>